

# 四半期報告書

(第69期第1四半期)

自 平成28年4月1日

至 平成28年6月30日

**星和電機株式会社**

E01984

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

### 第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	3
(2) 新株予約権等の状況	3
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	3
(4) ライツプランの内容	3
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	3
(6) 大株主の状況	3
(7) 議決権の状況	4

#### 2 役員の状況

	4
--	---

### 第4 経理の状況

	5
--	---

#### 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9

#### 2 その他

	13
--	----

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報

	14
--	----

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年8月10日
【四半期会計期間】	第69期第1四半期（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）
【会社名】	星和電機株式会社
【英訳名】	SEIWA ELECTRIC MFG. CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 増山 晃章
【本店の所在の場所】	京都府城陽市寺田新池36番地
【電話番号】	0774（55）8181
【事務連絡者氏名】	常務取締役 望月 友彦
【最寄りの連絡場所】	京都府城陽市寺田新池36番地
【電話番号】	0774（55）8181
【事務連絡者氏名】	常務取締役 望月 友彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第68期 第1四半期連結 累計期間	第69期 第1四半期連結 累計期間	第68期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年6月30日	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (千円)	4,247,837	4,091,041	23,397,778
経常利益又は経常損失(△) (千円)	△333,461	△159,930	648,953
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)又は親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	△284,990	△155,964	527,107
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	△286,829	△297,088	172,957
純資産額 (千円)	9,458,020	9,490,355	9,908,357
総資産額 (千円)	22,000,142	19,770,332	24,523,488
1株当たり四半期純損失金額(△)又は1株当たり当期純利益金額 (円)	△23.56	△12.89	43.59
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	42.6	47.9	40.3

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### （1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策を背景に堅調な設備投資や雇用環境の改善などがみられるものの、円高・株安も影響して、個人消費に関しては足踏み状態が続き、中国経済の減速や新興国の景気停滞、英国のEU離脱問題など、依然として景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

このようななか、当社グループにおきましては、ものづくり力と販売力の強化に向けて、開発力の強化、競争力ある生産体制の確立、製品品質の向上を図るとともに、ソリューション営業の実践とマーケティング力強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は40億91百万円（前年同四半期比3.7%減）となりました。営業損失は1億70百万円（前年同四半期は3億36百万円の損失）、経常損失は1億59百万円（前年同四半期は3億33百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億55百万円（前年同四半期は2億84百万円の損失）となりました。

なお、当社グループの情報機器事業の売上高は通常の形態として、他の四半期に比べ第4四半期に完成する工事の割合が大きいため、業績に季節的変動があります。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### （情報機器事業）

主力製品であります道路情報機器において、一般道路向けの売上が前年同四半期に比べ減少しました。この結果、売上高は13億64百万円（前年同四半期比23.7%減）となりました。利益面では、前年同四半期に比べ採算性の良い案件の売上がこの期間に上がったことにより、セグメント損失は4百万円（前年同四半期は1億14百万円の損失）となりました。

#### （照明機器事業）

民間設備投資関連の産業用照明器具においては、LED照明器具の売上が堅調に推移し前年同四半期に比べ増加しました。一方、公共投資関連においては、トンネル照明器具を中心に売上が前年同四半期に比べ減少しました。この結果、売上高は9億76百万円（前年同四半期比10.6%減）となりました。利益面では、コストの改善により、セグメント損失は62百万円（前年同四半期は67百万円の損失）となりました。

#### （コンポーネント事業）

エアコン用の配管保護機材と配電盤や機械装置に用いる産業用配線保護機材は前年同四半期並みに推移しましたが、新規製品は増加しました。また、電磁波環境部品は前年同四半期並みに推移しました。この結果、売上高は17億17百万円（前年同四半期比32.9%増）となりました。利益面では、売上の増加により、セグメント利益は2億43百万円（前年同四半期は1億58百万円の利益）となりました。

#### （その他の事業）

商品仕入販売は15百万円、情報サービスなどは16百万円となりました。この結果、その他の事業の売上高は32百万円（前年同四半期比57.2%減）となりました。セグメント損失は43百万円（前年同四半期は4百万円の利益）となりました。

#### （2）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はなく、また、新たに生じた重要な対処すべき事項はありません。

#### （3）研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、25百万円であります。  
なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,782,000
計	33,782,000

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,382,000	12,382,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は 100株であります。
計	12,382,000	12,382,000	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日	—	12,382,000	—	3,380,000	—	3,613,665

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 290,600	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 12,090,400	120,904	—
単元未満株式	普通株式 1,000	—	—
発行済株式総数	12,382,000	—	—
総株主の議決権	—	120,904	—

② 【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合（%）
（自己保有株式） 星和電機株式会社	京都府城陽市寺田 新池36番地	290,600	—	290,600	2.35
計	—	290,600	—	290,600	2.35

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清友監査法人による四半期レビューを受けております。



1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,599,101	2,139,264
受取手形及び売掛金	10,971,976	6,117,115
有価証券	9,585	—
商品及び製品	823,988	1,092,646
仕掛品	221,450	421,106
原材料及び貯蔵品	2,508,084	2,688,199
その他	477,422	496,456
貸倒引当金	△233	△51
流動資産合計	17,611,375	12,954,736
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,154,453	5,141,002
減価償却累計額及び減損損失累計額	△3,518,471	△3,544,413
建物及び構築物（純額）	1,635,982	1,596,588
その他	7,074,815	7,116,487
減価償却累計額及び減損損失累計額	△5,745,782	△5,784,812
その他（純額）	1,329,033	1,331,674
有形固定資産合計	2,965,016	2,928,263
無形固定資産		
投資その他の資産	594,058	585,857
投資有価証券	2,044,925	1,983,096
退職給付に係る資産	97,414	94,745
その他	1,283,074	1,296,008
貸倒引当金	△72,375	△72,375
投資その他の資産合計	3,353,038	3,301,474
固定資産合計	6,912,113	6,815,595
資産合計	24,523,488	19,770,332
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,577,041	4,573,491
短期借入金	3,383,183	78,742
1年内返済予定の長期借入金	1,179,884	1,179,884
未払法人税等	59,212	19,436
賞与引当金	273,620	111,395
受注損失引当金	118,454	110,886
その他	1,296,121	1,744,653
流動負債合計	11,887,515	7,818,490
固定負債		
長期借入金	2,398,903	2,141,432
役員退職慰労引当金	22,690	22,690
環境対策引当金	11,436	18,396
退職給付に係る負債	2,058	2,058
その他	292,528	276,910
固定負債合計	2,727,615	2,461,487
負債合計	14,615,131	10,279,977

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,380,000	3,380,000
資本剰余金	3,675,014	3,675,014
利益剰余金	2,331,561	2,054,684
自己株式	△200,245	△200,245
株主資本合計	9,186,331	8,909,453
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	494,573	414,263
為替換算調整勘定	164,664	106,266
退職給付に係る調整累計額	44,717	42,574
その他の包括利益累計額合計	703,954	563,104
非支配株主持分	18,071	17,797
純資産合計	9,908,357	9,490,355
負債純資産合計	24,523,488	19,770,332

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	※1 4,247,837	※1 4,091,041
売上原価	3,708,491	3,391,619
売上総利益	539,345	699,421
販売費及び一般管理費	876,257	869,886
営業損失(△)	△336,911	△170,464
営業外収益		
受取利息	3,173	3,118
受取配当金	21,669	17,737
不動産賃貸料	8,679	8,679
為替差益	222	7,792
その他	5,325	10,673
営業外収益合計	39,070	48,001
営業外費用		
支払利息	12,806	10,930
売上割引	17,844	15,667
その他	4,969	10,868
営業外費用合計	35,620	37,466
経常損失(△)	△333,461	△159,930
特別利益		
投資有価証券売却益	565	—
固定資産売却益	※2 1,546	—
関係会社清算益	690	—
特別利益合計	2,802	—
特別損失		
投資有価証券売却損	—	752
投資有価証券評価損	—	2,171
固定資産除却損	5,880	0
環境対策引当金繰入額	—	6,960
特別損失合計	5,880	9,883
税金等調整前四半期純損失(△)	△336,539	△169,814
法人税、住民税及び事業税	11,470	12,869
法人税等調整額	△64,652	△26,445
法人税等合計	△53,181	△13,576
四半期純損失(△)	△283,357	△156,238
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1,632	△273
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△284,990	△155,964

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純損失(△)	△283,357	△156,238
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△12,716	△80,310
為替換算調整勘定	17,088	△58,397
退職給付に係る調整額	△7,843	△2,143
その他の包括利益合計	△3,471	△140,850
四半期包括利益	△286,829	△297,088
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△287,676	△296,814
非支配株主に係る四半期包括利益	846	△273

**【注記事項】**

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

当社が加入する「京都機械金属厚生年金基金」は、平成26年2月20日開催の代議員会において、解散の方針を決議しました。なお、同基金は、特例解散の許可申請の時期を平成29年9月頃に予定しております。

同基金の解散に伴い費用の発生が見込まれますが、解散に伴う費用と業績に与える影響につきましては、現時点では不確定要素が多く、合理的な見積金額を算定することはできません。今後見積金額が判明した場合は、連結業績に影響を与える可能性があります。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

当社グループの情報機器事業の売上高は、受注状況から年度末に向けて完成する工事の割合が多くなる傾向にあるため、季節的変動があります。

※2 固定資産売却益

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

固定資産売却益の主なものは、建物及び構築物、その他(機械装置及び運搬具、器具及び備品)の売却によるものです。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
減価償却費	100,515千円	111,279千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月14日 取締役会	普通株式	96,730	8	平成27年3月31日	平成27年6月11日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月12日 取締役会	普通株式	120,913	10	平成28年3月31日	平成28年6月13日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	情報機器	照明機器	コンポーネ ント	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,787,089	1,092,815	1,292,276	4,172,181	75,656	4,247,837	—	4,247,837
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	547	547	66,637	67,185	△67,185	—
計	1,787,089	1,092,815	1,292,824	4,172,729	142,293	4,315,023	△67,185	4,247,837
セグメント利益 又は損失(△)	△114,052	△67,609	158,698	△22,964	4,996	△17,967	△318,944	△336,911

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メカトロニクス製品、商品仕入販売、情報サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△318,944千円には、セグメント間取引消去2,235千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△321,179千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	情報機器	照明機器	コンポーネ ント	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,364,366	976,948	1,717,317	4,058,632	32,409	4,091,041	—	4,091,041
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	777	777	53,228	54,006	△54,006	—
計	1,364,366	976,948	1,718,094	4,059,409	85,638	4,145,048	△54,006	4,091,041
セグメント利益 又は損失(△)	△4,902	△62,972	243,772	175,897	△43,037	132,859	△303,324	△170,464

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メカトロニクス製品、商品仕入販売、情報サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△303,324千円には、セグメント間取引消去2,062千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△305,387千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間に「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」を適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更に伴う、セグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	23円56銭	12円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額(千円)	284,990	155,964
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額(千円)	284,990	155,964
普通株式の期中平均株式数(株)	12,091,335	12,091,335

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成28年5月12日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………120,913千円

(ロ) 1株当たりの金額……………10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成28年6月13日

(注) 平成28年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

星和電機株式会社

取締役会 御中

清友監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 人見 敏之 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 三牧 潔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている星和電機株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、星和電機株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

注記事項（四半期連結貸借対照表関係）偶発債務に記載されているとおり、会社が加入する「京都機械金属厚生年金基金」は、平成26年2月20日開催の代議員会において、解散の方針を決議している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年8月10日
【会社名】	星和電機株式会社
【英訳名】	SEIWA ELECTRIC MFG. CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 増山 晃章
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 望月 友彦
【本店の所在の場所】	京都府城陽市寺田新池36番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長増山晃章及び当社最高財務責任者望月友彦は、当社の第69期第1四半期（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。